

播州そろばん

【産地組合】播州算盤工芸品協同組合

（産地紹介）

そろばんは室町時代の終り頃、中国から長崎に伝わりその後大津に伝わりました。天正年間に、羽柴秀吉が三木城を攻略した時、大津に逃れた住民が、そろばんの技法を習得し、地元に戻って製造を始めたのが播州そろばんの始まりとされています。昭和35年頃には360万丁と一番多く生産されましたが、その後電卓等の出現によって、その需要は減少してきています。



そろばんの玉はカバヤツゲの木で、枠はコクタンなど、堅くて強い天然の木を用いています。「うろこ細」など繊細な伝統技術によって組み立てられたそろばんは、使いやすさ、珠（たま）はじきの良さに加え磨き上げられたその美しさは、まさに木の美術品としての価値も備えています。